

令和6年4月～令和7年3月 いきものガイドウォーク(全10回) 予定と実績

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
4	27	二宮靖男 毛利英美子	<p>天候：曇り 参加者：20名 報告者：二宮靖男 テーマ：樹の花 野の花 竹林の筍</p> <p>この日、樹の花、新緑の葉の展開など立夏間近を伝える風景が園内随所に見られました。</p> <p>○樹に咲く花・果実 今年の藤棚は、昨年と比べて「隔年開花」の傾向があるのか花数が少ないようでした。C16近くのカワズザクラは早咲きならではの果実の生長ぶりで、早くも赤く染まったサクラランボ。ミズキは棚状の枝に白い雪のような花が満開。ユリノキは大木の枝が垂れ下がり、間近な高さで観察、チューリップツリーの美しさにみなさん感嘆。御衣黄(ギョイコウ)は、すでに花後も落花で観察、毛利さんから鬱金との差異なども説明いただきました。</p> <p>○野の花 園内草地のオニタビラコ、オオジシバリ、ハルジオンなど多くの野草が花盛り。今回、都市公園では希少なカントウタンポポにスポットを当てて各種の特徴と分布状況など説明しました。日本庭園ではモウソウチクの筍の形状と生長力について、竹林に咲くアヤメ属のイチハツが筍の隣で、美しくコラボしていました。このほかハルガヤのクマリンの芳香、スズメノヤリのタネにつくエライオソームなどサンプルを見せてアリ散布の説明などしました。終了後、公園ボランティアの人の情報で、キンラン、ギンラン、マツバラン、ヒトツバタゴ(ナンジャモンジャノキ)なども確認しました。</p>			
				<p>カントウタンポポ カントウタンポポは、総苞外片が反り返らず、先端に突起がある特徴がある。県内には、このほか、セイヨウタンポポ、アカミタンポポ、ウスギタンポポ、シロバナタンポポ、エゾタンポポなどが分布している。セイヨウタンポポなどとの交雑種が多い中、今や都市部では希少な存在である。「レンゲ、タンポポ、スマレソウ」は、かつて春を彩る代表的な野の花の一つであった。</p>	<p>モウソウチク 「竹の秋」という言葉がある。春には筍に養分がいくことで、葉が黄ばみ、落葉する様からこう呼ばれる。俳句の季語でもある。いま、竹の子は旬の食材で、筍御飯、若筍煮、お吸い物、とれたては刺身にもなる。筍は「竹冠に旬」と書く。一句は10日のこと。筍は10日で竹になる成長力を言い表している。松竹梅でおなじみの瑞祥植物である。</p>	

令和6年4月～令和7年3月 いきものガイドウォーク(全10回) 予定と実績

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
5	25	佐藤善治 久保雅春	<p>天候：晴れ 参加者：16名（30名程度の申込があるものの、当選者を20名に絞った後、キャンセルあり。今後はキャンセル待ちを5名程度とればどうか） 報告者：久保雅春 テーマ：初夏の景観を楽しむ 日差しが強く、初夏の景観を楽しむことが出来た。</p> <p>○人数が16名となったため、2班に分け、間隔を開けてガイドした。 ○常緑樹の葉っぱの入れ替えを楽しんだ。クスノキ、サンゴジュ、サザンカ、ツバキ、シラガシなど。 ○俳句の季語を楽しんだ。初夏の季語（楠若葉、楠落葉）、春の季語（竹の秋） ○シャリンバイとトベラノキを対比して観察した。 ○木本の花、実を楽しんだ。ハコネウツギの花、ヤマボウシの花、サツキの花、スイカズラの花、クワの実、ロウバイの実など。 ○サツキとツツジを生育場所から対比して、葉の大きさ、背の高さを比較して観察した。 ○草本を楽しんだ。花としてはコウゾリナ、ニワゼキショウ、ノミノツヅリなど。残念ながら、アヤメは花が終わっていた。写真にて、アヤメ、ノハナショウブ、カキツバタを比較して、特徴・生育場所を確認した。 ○水生植物の花を楽しんだ。スイレン、コウホネ。 ○最後に万葉植物園のマルバウツギの花に思いを馳せ、「夏は来ぬ」の歌を合唱して終えた。</p>			




常緑広葉樹と言っても、同じ葉が何年にも亘ってついているのではなく、定期的に新旧交代が行われている。
すべての葉が入れ替わるサイクルは樹種によって異なるが、クスノキの場合はほぼ一年交代となり、5月初旬～中旬のこの時期に一年間使い古され、落とされてしまう葉を「楠落葉」、それと入れ替わるように新たに展開する葉が「楠若葉」と呼ばれ、どちらも俳句の世界では初夏の季語になっている。

江戸時代に幅広く愛好された園芸植物のひとつにツツジがある。当初、ツツジとサツキは一つの括りにされていたが、1692年（元禄5年）に江戸近郊染井村植木屋伊藤伊兵衛が著した「錦繡枕」という書物の中でツツジとサツキが明確に分けられた。サツキは旧暦5月（現在の6月頃）に咲くのでそう名づけられた。
さて、葉の大きさに注目。ツツジに比べてはるかに小さく、細長く、樹高も低いのが特徴。これはツツジ（ルーツは山沿い）と異なり発生のルーツが常に増水の危険のある溪流沿いにあるため。

令和6年4月～令和7年3月 いきものガイドウォーク(全10回) 予定と実績

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
6	22	辰尾俊明 渡辺英城	<p>天候：晴れ 参加者：18名 報告者：渡辺英城 テーマ：迷木巡り～樹木の形の違いを探る～</p> <p>梅雨期が近づき天候が心配されましたが、幸いこの日は好天に恵まれました。 人数は18名でしたが、みんなで観察し考える、という部分に重点を置きましたので、班分けなしで進行しました。(但し、小型拡声器1台使用)</p> <p>内容としましては、これまでに公園内で見つけた変わった樹木(姿形、枝振り、根張り)の樹木を数点観察することをメインとし、併せてその他の樹木において、樹形、枝、葉の付き方など形態の違いについて比較しました。</p> <p>またこの時期の花として、定番であるアジサイの観察と、参加者のお子さんの見つけたキノコ(イグチ科)など観察。</p> <p><観察した主な動植物> モミ、キンモクセイ、ピラカンサ、ヤマハゼ、アジサイ、サルスベリ、イロハモミジ、モチノキ、サクラ、エノキ、ムクノキ、ヒイラギモクセイ、ヒマラヤスギ、スタジイ、サワラ、タラヨウ、ユリノキ、カイツカイブキ、キノコ(イグチ科)、ムクドリなど</p>	 <p>6月の花 アジサイ ガクアジサイ(額紫陽花) アジサイ科 アジサイ属 ・分布 本州、四国の沿海地の林に分布 ・花期 6～7月 ・名前の由来 両性花の集まりを囲う装飾花を額に見立てたことからガクアジサイの花序全体が装飾花に変化したものが、アジサイ(ホンアジサイ)と呼ばれます。園芸の世界では、装飾花が花序の周辺部を縁取るように並ぶものを「額咲き」と呼び、花序が全て装飾花となったものが「てまり咲き」と呼ばれます。</p>	 <p>針葉樹と広葉樹 左 モミ(樅) マツ科 モミ属 右 キンモクセイ(金木犀) モクセイ科 モクセイ属 樹木は種類やグループの違いにより姿形が違い、また環境の違いによっても個別の樹木により姿形が異なります。 公園内には沢山の樹木がありますが、中には不思議な形をした樹木があります。変わった姿形の樹木を観察し、どうしてそうなったのか考えてみましょう。 ○キーワード：『頂芽優勢』 頂芽の成長が優先され、側芽の成長が抑制されている状態のこと</p>	 <p>今日歩いたコースは・・・6月22日(土)</p>

令和6年4月～令和7年3月 いきものガイドウォーク(全10回) 予定と実績

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
9	28	善宝俊文 毛利英美子	<p>開催日時：2024年9月28日(土) 10:00-11:14 天候：晴れ(半袖で快適な気温) テーマ：『ようやく秋』 参加者：17名(児童1名、未就学児(ベビーカー)1名含む) (申し込み17名、スタート時2名いらっしゃっていませんので、15名かも知れません) 報告者：毛利英美子 スピーカー使用。班分けせず1つのグループとして行動。 途中、マテバシイの実(炒ったもの)、試食。参加者から「栗に似ている」などの感想。その他、エノキ、ムクノキの実も試食。五葉に分かれた松の葉の観察やカツラの葉の香りを体験していただいた。</p> <p><観察した主な動植物> マテバシイ、イチョウ、サルスベリ、コスモス、コキア、チャノキ、エノキ、ヒマラヤスギ、スダジイ、モチノキ、コメツガ、トウカエデ、ストロブマツ、ユリノキ、ムクノキ、カツラ、ヤマモミジ、イロハモミジ、キンモクセイ、トチノキ、ハナミズキ、オリーブ</p>	 <p>コスモス キク科コスモス属の一年草。メキシコ原産。明治時代に日本に伝わり、全国に普及。日本人の好きな花の上位にランキングされている。秋桜。花言葉は、乙女の真心、謙虚、調和。コスモスはギリシャ語の「秩序」「飾り」を表す「Kosmos」に由来するが、宇宙の意味もある。</p> <p>コスモスの花のあそびをる虚空かな 虚子</p>	 <p>マテバシイ ブナ科マテバシイ属の常緑広葉の高木。虫媒花。雌雄同株。果実は渋みがなく食用になる。春に開花し受粉、翌年の秋に成熟する2年成。もともとは九州南部・南西諸島の木であるが、公園樹・街路樹として関東でも普通にみられる。シイ属のスダジイ、ツブラジイも食用になる。</p>	 <p>今日秋のコースは・・・9月28日(土)</p>

令和6年4月～令和7年3月 いきものガイドウォーク(全10回) 予定と実績

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
10	19	河野 満 松本 薫	<p>開催日時：2024年10月19日(土) 10:00-11:15</p> <p>天候：晴れ(天気予報では最高気温30度の真夏日)</p> <p>テーマ：旅する植物：種子散布を楽しむ</p> <p>参加者：8名(申し込み9名)</p> <p>報告者：松本 薫</p> <p>スピーカー使用。班分けせず1つのグループとして行動。季節外れの桜の開花が話題にあがった(集合場所近くの桜も数輪開花していた)。</p> <p>種子散布に着目し、動物散布や風散布の違いを実際に観察しながら解説した。</p> <p>他の話題として、ヤマボウシとハナミズキは近縁なのに散布動物が違う？ 追熟は地上性哺乳類のための仕組み？ モチノキの果実はダミーがあったり、虫に支配されている？ 菌根菌ネットワークと種子散布方式の関係、など。</p> <p><観察した主な植物たち></p> <p>ピラカンサ、ヤマグワ、ウラジロモミ、テングタケ科のキノコ、サクラsp.、キンモクセイ、マテバシイ、チヂミザサ、チカラシバ、ヤマボウシ、トウネズミモチ、モッコク、イチョウ、イロハモミジ、サルスベリ、アジサイ、スタジイ、モチノキ、ムクノキ、ヒイラギモクセイ、ユリノキ、カラスノゴマ、キンミズヒキ、ササクサ、フユノハナワラビ</p>			

キンミズヒキ(バラ科) *Agrimonia pilosa* var. *japonica*

北海道～九州の低地、山地にふつうに生える。花弁は5枚で黄色、葉は5～9個の小葉からなる。雄しべは8～14個。よく似たヒメキンミズヒキの花弁は細く、雄しべの数は5～6本。細長い黄色の花穂を「金色のミズヒキ」にたとえたものである。果実にはカギ状に曲がった棘が密生しており、ひつつき虫とも呼ばれる。この棘が衣服や動物の毛などに引っかかって散布され、広範囲に分布する。

サルスベリ(百日紅)(ミソハギ科) *Lagerstroemia indica*

サルスベリは数性が6の珍しい植物。萼は6枚、花弁も6枚。中央には雌しべと多数の雄しべがあるが、その周りをより長い6本の雄しべが取り囲んでいる。また、果実は内部が6つに分かれている。これが一つの花の単位となり、円錐状に並んだ花の塊(円錐状花序)を作る。中国南部原産、世界の熱帯各地に分布する。熱帯でない日本では落葉樹。日本には江戸時代以前に渡来したと言われている。


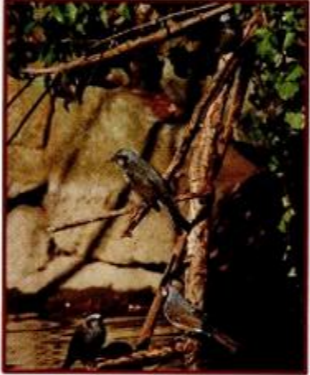
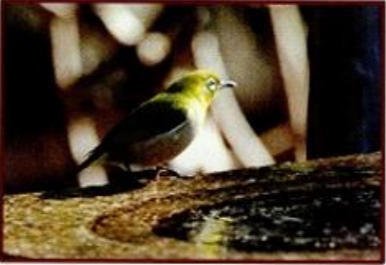


令和6年4月～令和7年3月 いきものガイドウォーク(全10回) 予定と実績

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
11	23	芳野光夫 辰尾俊明	<p>開催日時：2024年11月23日（土） 10:00～11:30</p> <p>天候：快晴 テーマ：宝探し（木の実や紅葉した落ち葉を捜しながら歩きます） 参加者：20名 報告者：辰尾俊明</p> <p>最初に本日のテーマに沿って自分が宝物と思う物を拾って入れておく 小さな透明なビニール袋を参加者に配った。それから予定のコースを参加者全員が何か珍しいもの、綺麗なものを拾おうと下を覗ながら歩き出しました。</p> <p>ドングリはマテバシイやスダジイ、コナラやクヌギ、アラカシやシラカシの実を見つけて、ドングリ以外の木の実ではエノキの実やユリノキの実、トウネズミモチの実、アカシデの実、メタセコイアの実などを見つけて袋に入れていました。</p> <p>落ち葉についても色とりどりの落ち葉を見つけました。タイサンボク、マテバシイ、エノキ、ミズキ、イチョウ、ユリノキ、トウカエデ、カツラ、ケヤキなどの落ち葉を拾って袋に入れていました。</p> <p>木の実にはベージュ、茶色や黒系色の地味な色の宝ものでしたが、落ち葉は赤や黄色、茶色、緑色など華やかな宝物となり、当日の参加者で唯一の小学生は袋がパンパンになるほど詰め込んでいました。木の実の色は地味でしたが、ユリノキ木では まだ木に残っている実を女子小学生が長い棒で枝を揺ると風に乗って沢山の種がプロペラのように飛び散り思いがけないパフォーマンスを披露してくれました。</p>	 <p>落ち葉</p> <p>タイサンボク、マテバシイ、エノキ、ミズキ、イチョウ、トウカエデ、ユリノキ、ケヤキ等の落ち葉を拾うことが出来ました。まだ紅葉が始まったばかりの木もあり、これから本格的な落ち葉の季節となります。</p>	 <p>木の実</p> <p>コナラやクヌギ、マテバシイやスダジイ、アラカシなどのドングリやエノキの実、ユリの木の実、トウズミモチやアカシデの実、メタセコイアの実などを見つけて拾いました。まだまだ、ドングリやその他の木の実がたくさんありました。</p>	 <p>今日歩くコースは・・・11月23日(土)</p>

令和6年4月～令和7年3月 いきものガイドウォーク(全10回) 予定と実績

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
12	21	二宮靖男 善宝俊文	<p>開催日時：2024年12月21日（土） 10：00～11：15</p> <p>天候：快晴 参加者：13名 テーマ：冬芽・残果と冬の花サザンカ (サブテーマ：散歩道のロゼット・残菊・林床の草紅葉も楽しむ) 報告者：善宝俊文</p> <p>朝方の冷え込みとは打って変わって小春日和のぽかぽか陽気の中での開催となった。五感を使って初冬を楽しみましょうとの掛け声でスタートし、二宮さんの豊富な知識と軽妙な語り口の中、参加者はメモを取りながら興味深々と楽しんでいる様子がうかがえた。</p> <p><右記以外に観察したもの>ピラカンサの実、カワヅザクラの樹皮、キンモクセイの樹皮、ヤマザクラの冬芽、ハルジオン等のロゼット、アジサイの冬芽、エノキの実と落枝痕、ムクノキの樹皮、スダジイとツブラジイの違い、ミズキの冬芽、クスノキの実、イチョウの長枝と短枝の役割、ササクサの群落、イヌコウジュとヒメジソの違い、ドウダンツツジ、ヒサカキ、ハクセキレイ、ロウソクゴケ、ヒナノハイゴケ、キマダラカメムシ</p> <p>最後にタチカンツバキを観察して散会となった。</p>	 <p>ユリノキ</p> <p>師走の冬空を背景に枝に残る果実がよく目立つ。枝先に冬芽も見られる。芽鱗はコブシと同様に托葉由来のものという。モクレン科、ユリノキ属の北米東部原産の落葉高木で、明治初期に渡来。花の形がチューリップに似ているので、別名チューリップツリー。初夏に咲く。葉の形が半纏(はんてん)に似ているのでハンテンボク。ただし葉の切れ込みの形は多様で、半纏形になる4裂がふつうだが、6裂のものもある。葉は秋に落葉する。花がチューリップ、葉が半纏(はんてん)、別名の由来がじつに的確で観察眼をかき立てて楽しい。翼果の集合体が枝に残っているが、1枚1枚の細長いへら状のものが果実(翼果)である。この翼果は冬の風をうけて回転しながら種子散布される。同属に中国からベトナムに分布するシナユリノキがある。小石川植物園、越谷アリタキ植物園などで見られる。</p>	 <p>冬の花サザンカ 横張性で蕊が隠れる獅子咲き カンツバキ 獅子頭</p> <p>冬の花 サザンカ タチカンツバキ 別名勘次郎 立ち性 蕊が明瞭に見えるしべ</p> <p>カンツバキ 別名 獅子頭(ししがしら) タチカンツバキ 別名 勘次郎</p> <p>寒椿(カンツバキ)の名があるが、1枚ずつ散ること、子房に毛があることからサザンカの系統とされている。カンツバキ系は雄蕊の一部が弁化して八重咲きで華やかなものが多い。カンツバキ(獅子頭)は横張性で公園の生け垣やボーダーガーデンに欠かせない花木である。なお、立ち性のカンツバキはタチカンツバキ(立寒椿)、別名は勘次郎。航空公園にも多く見られる。このカンツバキの実生、後代から、多くのサザンカの品種が生まれている。カンツバキ系の品種は、花が小輪～中輪、八重咲きで、華やかな品種が多い。サザンカのグループは、①サザンカ品種群、②カンツバキ品種群、③ハルサザンカ群、④タゴトノツキ群がある。</p> <p>《サザンカとツバキの違い》 ①サザンカは開花期が早い。ツバキの多くは春の花 ②サザンカは花弁が1枚1枚散る。ツバキは花ごと落ちる。③サザンカは花の香りが強い。ツバキはほとんど匂わない。④サザンカの葉は小型～中型、ツバキは大型～極大型 ⑤サザンカの子房に白毛がある。ツバキ(ヤブツバキ)の子房は無毛で光沢がある。</p>	 <p>今日歩いたコースは...12月21日(土)</p>

令和6年4月～令和7年3月 いきものガイドウォーク(全10回) 予定と実績

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
1	25	渡辺英城 芳野光夫	<p>開催日時：2025年1月25日(土) 10:00～11:20 天候：くもり、やや風あり 参加者：18名 テーマ：バード・ウォッチング 報告者：渡辺英城</p> <p>当初は20数名ということでしたが、天気予報が芳しくなかったせいか、当日参加人数は18名でした。特に班分けなし。ワイヤレスヘッドマイク使用。</p> <p>近年、暖冬のせいか見られる野鳥の数が種数、個体数ともに減っている感があります。予定ではロウバイ園から日本庭園を経由して池へ向かうコースでしたが、予報では風が強く気温も低かったことから、予定変更して日本庭園をショートカットしロウバイ園から直に池に向かうことにしました。</p> <p>実際には予報よりも天候が安定していたため、出現した野鳥は少なめでしたが、合間でロウバイ始め冬の樹木も観察し、最後に池を一周してツアー終了となりました。</p> <p><見られた野鳥> ドバト、ムクドリ、ヒヨドリ、スズメ、ハシボソガラス、ハクセキレイ、マガモ、コガモ、アオサギ、カワウ、シジュウカラ</p> <p><観察した樹木> ソシンロウバイ、マンゲツロウバイ、カンツバキ(獅子頭)、ツバキ、ハンノキ</p>	<p>～冬に見られる野鳥～</p> <p>《池の近くで見られる野鳥》 (カワセミ、ヒヨドリ、マガモ、アオサギ、シジュウカラ等)</p>  	<p>《日本庭園の近くで見られる野鳥》 (メジロ、シジュウカラ、コゲラ、シロハラ、ヒヨドリ、ハクセキレイ等)</p>  	<p>今日歩いたコースは・・・1月25日(土)</p> 

令和6年4月～令和7年3月 いきものガイドウォーク(全10回) 予定と実績

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
2	22	佐藤善治 松本薫	<p>開催日時：令和7年2月22日 10:00～11:00 天候：晴れ 気温約5℃ 参加者：14名（うちFIS会員1名，子供1名） テーマ：雪中四友：雪の中に咲く香気馥郁たる植物 報告者：松本薫</p> <p>○受付時に班を分けてもらい、2班に分かれて間隔を開けてガイドしました。 ○参加者は常連さんの方や初めて参加される方など様々です。 ○雪中四友のロウバイ、サザンカ(カンツバキ)、ウメ、スイセンは彩りや香りを楽しみました。子供に香りを聞いてみると素直で的確な感想を話してくれました。 ○そのほか、フクジュソウやツバキの品種(白侘助、太郎冠者など)が花を咲かせており、フクジュソウにはハナアブ、ツバキにはメジロが来ていました。 ○子供が拾ってきた木の実を辿ってみると、アセビが実を落としていながら数個の花も残していました。また、ツブラジイのドングリは今年豊作のようです。 ○虫はいないものかと、ケヤキの肌をめくってみるとアリグモが寝ていたようで、興味深く姿や動きを観察しました。</p>	<p>～雪中四友：雪の中に咲く香気馥郁たる植物～ (ロウバイ、ウメ、スイセン、サザンカ)</p>  <p><ウメ> (梅) (バラ科サクラ属またはアズキ属) Prunus mume</p> <p>「万葉集」で植物を詠い込んだもの第一位は萩(142首)ですが、それに次ぐのが梅(119首)で古くから日本人に親しまれてきた代表的な花木です。ただし、この119首はすべて白梅で紅梅が日本に入ってきたのは平安時代以降のようです。 今日は冬を彩る梅の、桜とはガラリと異なる魅力を楽しみましょう。 (彩稲亭や梅園にあり)</p>  <p><サザンカ> (寒椿) (ツバキ科ツバキ属) Camellia sasanqua</p> <p>晩秋から冬にかけて、開花する植物の少なくなるこの時期にひとときわ眼を引く鮮やかな花を付けてくれるのがサザンカです。サザンカの園芸品種は「サザンカ群」、「カンツバキ群」、「春サザンカ群」の三つに分けられますが、航空公園ではこの写真の「カンツバキ」(ツバキの仲間ではありません)の仲間たちがほとんどです。これらの元になった野生のサザンカは世界中で日本にのみ生育する固有種です。 (園内のいたるところにあり)</p>	 <p>(ロウバイ) ロウバイ科ロウバイ属 品種名: ソシンロウバイ Chimonanthus praecox f. coloratus</p> <p>半信半疑で、江戸時代初期に日本へ渡ったロウバイは植物学上の品種でなく、果実部が丸く少し、マンダロウバイはソシンロウバイを改良した園芸品種</p>  <p>(スイセン) ヒガンバナ科スイセン属 品種名: ニホンスイセン Narcissus tazetta var. chinensis</p> <p>地中海原産だが、中国を經由して東洋に渡り、江戸時代には定着あり 昔は江戸川を見ればきたら、必ず持ち込まれた</p>	<p>今日ガイドコースは・・・2月22日(土)</p> 

令和6年4月～令和7年3月 いきものガイドウォーク(全10回) 予定と実績

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
3	22	久保雅春 河野満	<p>開催日時：令和7年3月22日 10:00～11:30</p> <p>天候：晴れ 参加者：23名（うちFIS会員1名、読売記者1名、その他1名） テーマ：サクラ 報告者：河野 満</p> <p>○今回は久保さんの紹介で、読売新聞の記者の方が取材にいらっしゃいました。 ○一般参加者は定員の20名が参加。常連の方が1名当日キャンセル待ち。キャンセルが無かったため資料無しで同行されました。 ○最初に久保さんが、日本の桜について全般、標本木や自生種10種等の説明を行いました。 ○説明後班を2つに分け、間隔を開けてガイドしました。 ○カンヒザクラは見ごろでしたが、カワヅザクラは散り掛け、ソメイヨシノ、ヤマザクラ、シダレザクラ、ギョイコウ、ジンダイアケボノ、オオシマザクラはつぼみの状態でした。 ○ソメイヨシノとヤマザクラの蕾の違いを説明し見比べてもらうと、花が咲く前に見分けられると喜んでいました。 ○そのほか、フクジュソウやツバキ、ジンチョウゲ、ヒイラギナンテン、サンシュユ、ボケ、スイセン、コブシ、ハクモクレン、アブラナが咲いていました。 ○子供は落ちたツバキの花を拾っていました。松ぼっくりには興味がない様で、ビンの中の開いた松ぼっくりの話をしたら、周りの大人が喜びました。 ○汗ばむような天候の下、楽しく歩きました。 ○数人の受講者が、次世代のジンダイアケボノの開花を楽しみに、数日後再訪する予定との事でした。</p>	 <p>カワヅザクラ(河津桜)</p> <p>オオシマザクラとカンヒザクラの自然交雑種。 特徴としては、オオシマザクラ由来の大輪の花とカンヒザクラ由来の紫紅の花弁と早咲き。接ぎ木などで増殖。1955年に飯田勝美氏が静岡県賀茂郡河津町の河津川沿いで1mの原木を発見し、家に持ち帰り、庭に植栽。1966年1月下旬から1ヶ月間咲く。当初は飯田氏の屋号から「小峰桜」と呼ばれていたが、1974年「河津桜」に命名。1975年河津町の木に指定。</p>	 <p>カンヒザクラ(寒緋桜)</p> <p>外国産野生種の1つ。外国産野生種としては他にシナミサクラ(支那実桜)がある。カンヒザクラは台湾・中国原産。シナミザクラは中国原産。 別名は旧暦の正月あたりに咲くことからガンジツサクラ(元日桜)と呼ばれることもある。別名ヒカンザクラ(緋寒桜)、ヒザクラ(緋桜)とも呼ばれる。 特徴として、花は中輪の一重咲きで、釣鐘状の下向きに閉じたような半開き。濃い紫紅色の花弁を付ける。 沖縄(石垣島、宮古島、那覇、南大東島)のサクラの標本木はカンヒザクラ。 東京都・埼玉県の標本木はソメイヨシノ(染井芳野)で、東京都は靖国神社のソメイヨシノ、埼玉県は熊谷桜堤のソメイヨシノ。</p>	